



校長室だより 2

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和7年9月19日

第17号

9月は毎週水曜日の朝に村椿地区更生保護女性部の皆さんが来校され、児童玄関前で挨拶運動をしてくださっています。ありがとうございます。そこを通り過ぎる子供たちはというと、元気に挨拶をしていく子もいれば、恥ずかしそうにそそくさと通り過ぎていくだけの子もいます。女性部の皆さんは「でも口はちゃんと（おはようございますと）動いていますよ」と、子供の表情をよく見ておられます。また別の方は「土地柄ですかね。村椿の子は少し大人しいけれども、その分みんな素直ですよ」と、温かい心で受け止めてくださっています。

なるほど、そういうことなのかもしれないと思いつつも、子供たちが恥ずかしい気持ちを乗り越えて元気に声が出せるように、学校生活の様々な場面での取組を重ねていくことが必要だと感じています。

勝敗にこだわる本気 勝敗を乗り越える勇氣

このところ世界陸上や大相撲秋場所、シーズン終盤のプロ野球、大リーグ等々、スポーツの世界は日々白熱の勝負が続けられています。誰もが精一杯力を出し尽くして本番に臨んでいても、結果として勝者と敗者とに分かれるというのが「勝負の定め」であることを、まざまざと教えてくれます。

勝負慣れしていない小さい子供にとって「負けること」は簡単には耐えられない試練かもしれませんが、勝つばかりではなく少しずつ負けることにも慣れ、その意味を理解できるように体験を重ねていくことが、人間として大切だろうと思います。

相田みつを（栃木県の詩人、書家 1991 年没）さんの名言に「負ける人のおかげで勝てるんだよなあ」というものもあります。勝者の陰には敗者がいることを理解し、真剣勝負であればあるほど「負けた側」の心情に思いをはせ、勝利を謙虚に受け止められる、そうした心をも育てたいと思います。

さて、本校では5・6年生が毎週1回「新聞コラムを読む」の学習に取り組んでいますが、今週は9月13日付朝日新聞の「天声人語」を読みました。それは、高知競馬のハルウララの死を取り上げた、読み応えのある内容でした。「負け組の星」として113連敗という記録を残して引退した競走馬のエピソードを、おそらく子供たちは今回のコラムで初めて知ったことと思います。感想を幾つか紹介します。

- ・何度負けても勝ちたいとがんばった、そんなハルウララを知り、いくら負けてもがんばる気持ちを持ちたいと思いました。
- ・レースを見続けてきた実況アナの言葉がこんなにも心にききるのがすごいと思った。
- ・この馬に親しみをもてた。
- ・勝ちなき一生を「価値ある一生」と言えるのがいいなあと思った。
- ・113連敗になってもあきらめなかったのがすごいと思った。
- ・こんな馬がいたんだなと思った。おもしろい内容だった。
- ・負けてもがんばればよいということがよく分かりました。
- ・負けるということがダメなことじゃないんだと思いました。

運動会を前にした子供たちの心に、ちょっとしたヒントが投げかけられたのならよかったと思います。



27日(土)に向け、運動会の練習を毎日少しずつ重ねています。どの子の表情にもたくましさを感じられます。



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名（

）

9月の短歌「明」(または自由)を紹介します

今月は「令和8年歌会始」のお題「明」で短歌を募りました。難しいかなと思いましたが、16首も集まりました。そのうちの8首は実際に詠進（宮内庁に応募）することにし、ランチルームで各自が読み上げました。



そのほか「明」以外の自由題の歌も合わせて24首集まりました。幾つか紹介します。

- せん明にシャトルが見えて打ち返す ねばるぞねばるあきらめないよ
- からいけどそれでもおいしい明太子 福岡県でいつか食べたい
- さつまいもろくねんせいとほりかえす わたしだいすきスイートポテト
- さかなつりやまめつるたびうれしいな やまめつれないだめだこりゃあ
- ご近じょにいろいろなねこかっているわたしのすきなのはみけねこちゃん

7月から集まっている歌と合わせて、来週24日から公民館にも掲示していただこうと考えています。お立ち寄りの際はご注目ください。感想もお聞かせ願えますと、子供たちにとって励みにもなります。

シリーズ「教室におじゃまします」9月17日(水)5年外国語科の巻

canを使ってインタビューしよう



の学習でした。授業の初めは前の時間の学習内容の復習でした。“I can～.” “Can you～?” “の文型は一通り学習済みで、皆すらすらと声に出すことができます。あとはインタビューらしく、リアクションの言葉を加えていきます。“Good!” “Nice!” “Really?” “I see.” 等々いろいろあります。また、会話の空白をなるべくつくらないように “My turn.” / “Your turn.” といった便利なフレーズもあります。越後先生とジェシカ先生のデモンストレーションや城石先生の解説でイメージを高めます。

その後は1分間の個人練習です。前の時間に書いて準備していたワークシートを見て練習します。そしていよいよ紙を見ずに1分半の本番です。どのペアも思い切って実演できていました。肝心の英語が上手く出てこないときもジェスチャーや（考えている）表情でコミュニケーションをとっていることが伝わりました。

各ペアの発表の様子を、教室後方からジェシカ先生がしきりにメモを取りながらチェックしていました。リアルタイムで評価をしているようでした。すべての実演が終わったところでジェシカ先生は、特に上手だった子やペアを発表し、その理由も説明しました。そして最後は “Everyone good job!” ALTの先生から太鼓判をもらえるほど、確かにどの子も生き生きとインタビュー学習ができていました。素晴らしいです！



<おまけのひとりごと> 3連休の最終日15日(月)、私は日帰り東京に行ってきました。目的は世界陸上、ではなく大相撲九月場所。久しぶりに十両まで上がってきた朝乃山関の応援です。若い力士が次々と台頭して来ている中でも朝乃山の人気は衰えず、国技館内の声援の大きさも掲げられるタオルの数もなかなかのものでした。しかし、この日の取組はあえなく黒星となり、声援がたちまち悲鳴のため息に…。でも、相手も必死ですものね…。真剣勝負だからこそその熱気を感じました。朝乃山には頑張ってほしいです。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ()